

令和3年3月12日

## 瀬戸内市内の医療機関における岡山県クラスター対策班（OCIT）活動報告

岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部事務局  
医療調整班 感染防止対策グループ

### 1 活動の概要等

1月7日に当該病院の2階病棟に勤務する職員1名、さらに8日に職員1名の陽性が判明。職場以外の会食による感染であったが、7日に2階病棟の病院職員・入院患者95名の一斉検査を行い、8日にすべて陰性が判明。

しかし、16日になって直近で転院した患者の1名の陽性が転院先の病院で判明。これを受けて17日に2階病棟の職員・入院患者88名の一斉検査を行い、17日から18日にかけて職員4名、入院患者5名の陽性が判明した。この時点で同病院での感染者が10名となり、クラスター認定。

18日、備前保健所と医療調整班で病院への立入を実施。病院幹部とも協議の結果、同日中に岡山県クラスター対策班（OCIT）の派遣を決定。翌日19日より感染管理専門家及び現地医療提供チームを派遣し、OCIT活動開始。1月25日、26日に2階病棟以外の感染拡大の有無を確認するため2階病棟を含む全病棟を対象に職員179名、患者220名の一斉検査を実施したところ2階病棟の入院患者3名の陽性が判明した。

現地医療提供チームは2月2日まで活動継続。また、1月19日から2月9日までの期間、随時、感染管理専門家を派遣し感染防止対策を行うとともに、発生時より継続して疫学分析を行った。さらに、OCITの活動内容について、医療調整班感染防止対策グループが現地で調整を行うとともに、同グループの感染管理・疫学専門家が連日支援を行った。

2月8日、2月15日、PCR検査の結果すべて陰性を確認。これをもってすべての接触者の最終的な陰性を確認するとともに、陽性者の健康観察期間も終わり、クラスターの収束となった。

#### （1） 現地医療提供

医師が入院中の陽性患者の急変時の対応への助言等を現地で行うとともに、必要に応じてオンコールでも対応した。また、業務調整員が施設本部の体制整備及び医師の支援業務等を行った。派遣元医療機関等は計5機関、累計で医師14名、業務調整員12名を派遣した。

#### （2） 感染防止対策

感染管理専門家が現場に合わせた感染防止対策上の助言を行うとともに、ゾーン

グ、個人防護具（PPE）の着脱デモンストレーション等を行った。感染対策を継続して実施できるようチェックリストの作成やビデオ撮影等により感染対策の見える化を図り、現場のスタッフと協議しながらルール作りを行った。派遣元医療機関は計2機関で、感染管理専門家を累計4回派遣した。

### （3）疫学分析

疫学の専門家により、発生状況の把握及び発生要因について分析を行った。具体的には陽性患者がいつどこで発生したか、感染経路はどこか等の分析を行い、その結果を現地で共有し、リアルタイムで対策に反映させることで、より効果的な感染防止対策を実施できた。累計で2名の疫学・衛生学の専門家を派遣した。

## 2 活動を踏まえた OCIT の所感

医療機関、備前保健所と緊密な連携のもとで感染の収束まで対応を行った。現地での日々の発生状況や体制に応じた活動を行う上で、以下のことが特に重要であったと考えられる。

- 1) 医療機関、備前保健所、岡山県新型コロナウイルス対策本部事務局医療調整班、岡山県クラスター対策班の間で、緊密な情報共有と役割分担、連携を行うとともに、感染管理等のルールなどについて明確にしたこと。
- 2) OCIT 専門家・チームによる適時の的確な指導・助言があったこと。
- 3) 医療機関側の積極的な協力態勢と柔軟な対応、院長のリーダーシップ、看護師等との緊密なコミュニケーションとフォローがあったこと。

また、今回は初の病院クラスターへの対応であり、高齢者施設とは違った対応がみられることもあった。特に、病院という特性上医師が常駐しているため、診察等を病院内で完結させることができた。CT 等の検査機器も整っていたため、患者の容体を素早く詳細に把握することができ、現地医療提供チームが処置や転院の判断をする際に役立てることができた。

## 3 施設の所感

クラスター発生当初より OCIT に関わって頂き、陽性患者について OCIT 医師の助言等により、症状の変化に対し迅速な処置・転院等を実行する事が出来た。また、ICN 等による現場での個人防護具（PPE）の着脱やゾーニング等の助言・指導を受け、当院の現場に沿った感染予防策を勘案出来た事も収束に繋がった要因と思われる。OCIT の専門家・チームによる指導・助言等が無ければ、収束時期は長期化していたのではないかと考えている。マスクや手洗いなど基本的な感染対策を今一度注視し、教訓として日常業務を行うよう努めたい。

<活動の様子>



医療機関内の対策本部



感染防止対策に関する看護師との協議



現地医療提供チーム医師による陽性者の  
状況確認



レッドゾーンでの活動の様子



感染管理専門家による指導の様子




感染管理専門家による个人防护具着脱デモ  
ンストラーション動画の撮影

〈感染管理専門家による助言内容例〉

(助言前) 陽性者エリアの PPE 脱衣場所の様子

**PPE脱衣場所 〈陽性者エリア〉**

**介入前**



デスポ食器  
やおむつ専用

PPE専用ゴミ箱 (毎回、耐貫通性容器ごと廃棄)  
⇒PPEがかさばるため毎回、小ビニール袋にPPEを  
入れて小さくして廃棄していた


PPE廃棄容器が小さくフェイスシールド  
がかさばるため別にしている。

〈スタッフの声〉  
○ゴミ箱が小さくすぐいっぱいになる  
○ゴミ袋2重での廃棄でよいのであればそうしたい

(助言後) 陽性者エリアの PPE 脱衣場所の様子

**介入した内容**

PPE脱衣場所 〈陽性者エリア〉



〈介入前〉  
PPE専用ゴミ箱 (毎回容器ごと廃棄)  
⇒PPEがかさばるため毎回、小ビニール袋にPPEを入れて小さくして廃棄していた

〈介入後〉  
現行より大きめのゴミ箱を使用していただき、耐貫通性廃棄容器ごと廃棄していたのを、ゴミ袋2重で感染性廃棄物に廃棄していただくよう変更。  
毎回、小さなビニール袋に汚染したPPEを入れていたのをやめていただいた。

### (助言前) PPE 着脱場所の様子



### (助言後) PPE 着脱場所の様子

